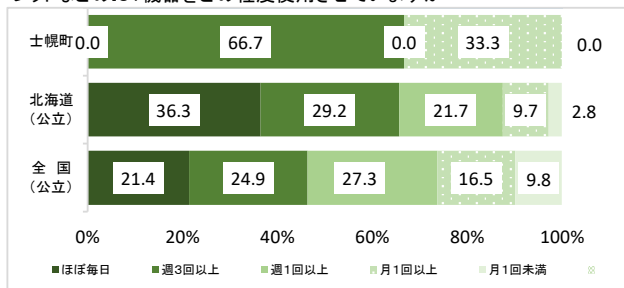


○ 質問調査の状況

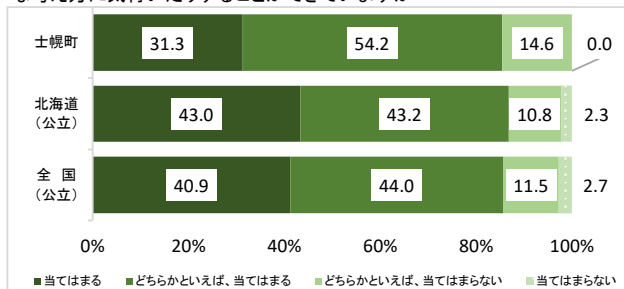
小学校 ＜学校質問＞

児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



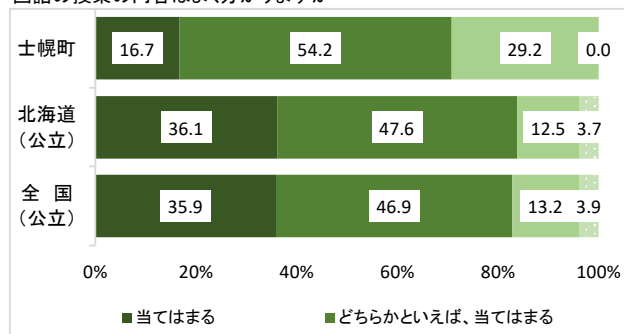
小学校 ＜児童質問＞

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



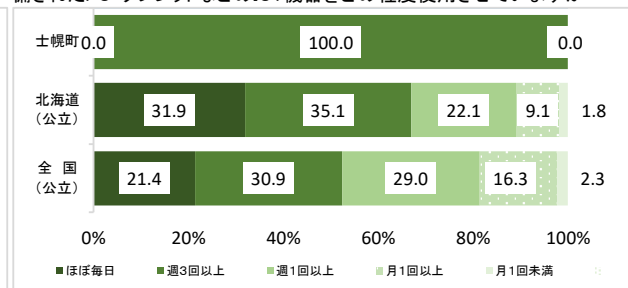
小学校 ＜児童生徒質問＞

国語の授業の内容はよく分かりますか



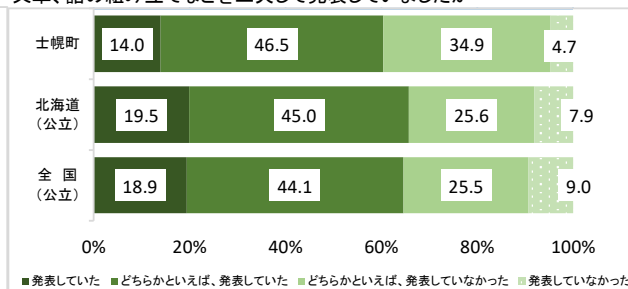
中学校 ＜学校質問＞

生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

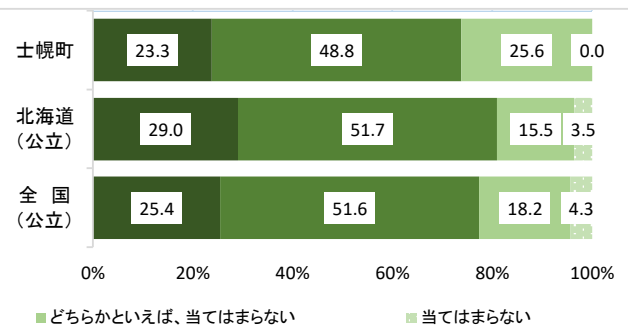


中学校 ＜生徒質問＞

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか



中学校



○ 調査結果の分析

- 小学校において、児童同士がやりとりする場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている（含どちらかといえばできている）と回答した児童の割合が全国及び全道と同等だったと考えられる。
- 中学校において、生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上活用したことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた（含どちらかといえば、発表していた）と回答した生徒の割合が、全国及び全道とほぼ同等だったと考えられる。
- 小学校、中学校ともに国語の平均正答率が全国及び全道を下回っている状況は、国語の授業の内容はよく分かったと回答した児童生徒の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。

○ 今後の改善方策

- 課題の自力解決と交流場面を効果的に設定した授業改善を図ることにより、児童生徒一人一人の思考力・判断力・表現力を確実に育成する取組の推進
- 積極的かつ効果的なICT端末の活用（学習支援ソフト）による、家庭と連携した家庭学習の習慣化を図る取組の推進
- 小学校及び中学校における確かな学力の向上に向けた町臨時教諭や学習支援員、小学校での専科教諭の配置継続